

最近の経済動向

令和3年6月号

(北海道の景気動向～令和3年4月の経済指標を中心として)

一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している

■生産動向

P1 生産活動(鉱工業生産指数)
持ち直しの動きがみられる

■需要動向(消費・投資)

P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、
インターネットを利用した一世帯支出額、新車登録台数)
一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている

P6 住宅建設(新設住宅着工戸数)
持ち直しの兆しがみられる

P7 公共工事(公共工事請負金額)
おおむね横ばいとなっている

P8 観光(来道者数、来道外国人数)
下げ止まりの動きがみられる

P10 輸出入(輸出額、輸入額)
輸出額、輸入額とも前年を上回った

■企業倒産

P11 企業倒産(倒産件数、負債総額)
倒産件数、負債総額ともに減少した

■雇用動向

P13 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)
弱い動きが続いている

■物価動向

P15 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を上回った

■企業の業況感

P16 企業経営者意識調査
前期から上昇している

P17 企業のみなさまから伺いました

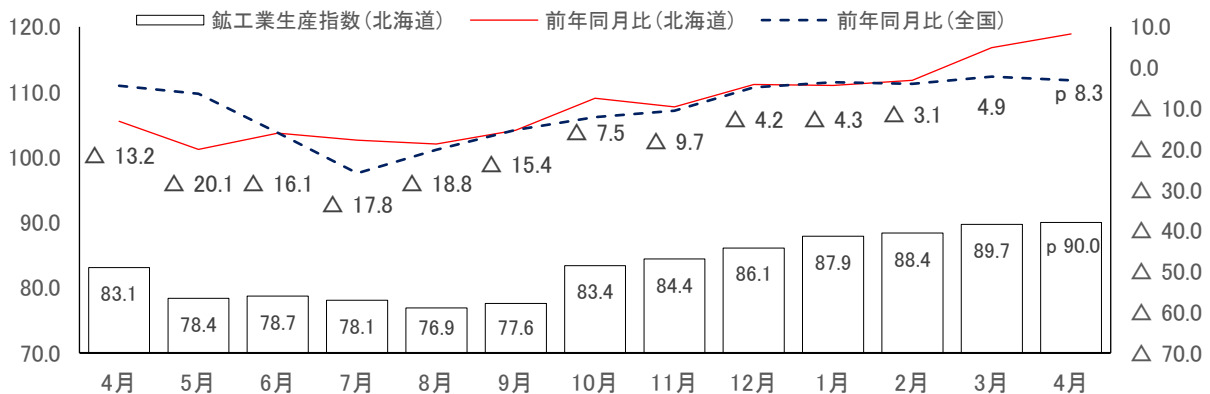
生産活動～持ち直しの動きがみられる

鉱工業生産指数（4月）

鉱工業生産指数（季節調整済）は、90.0で前月比+0.3%（8か月連続で上昇）であり、原指数による前年同月比は、8.3%（2か月連続で上昇）となった。業種別にみると、一般機械工業など6業種が前月比上昇、食料品工業など9業種が前月比低下となった。

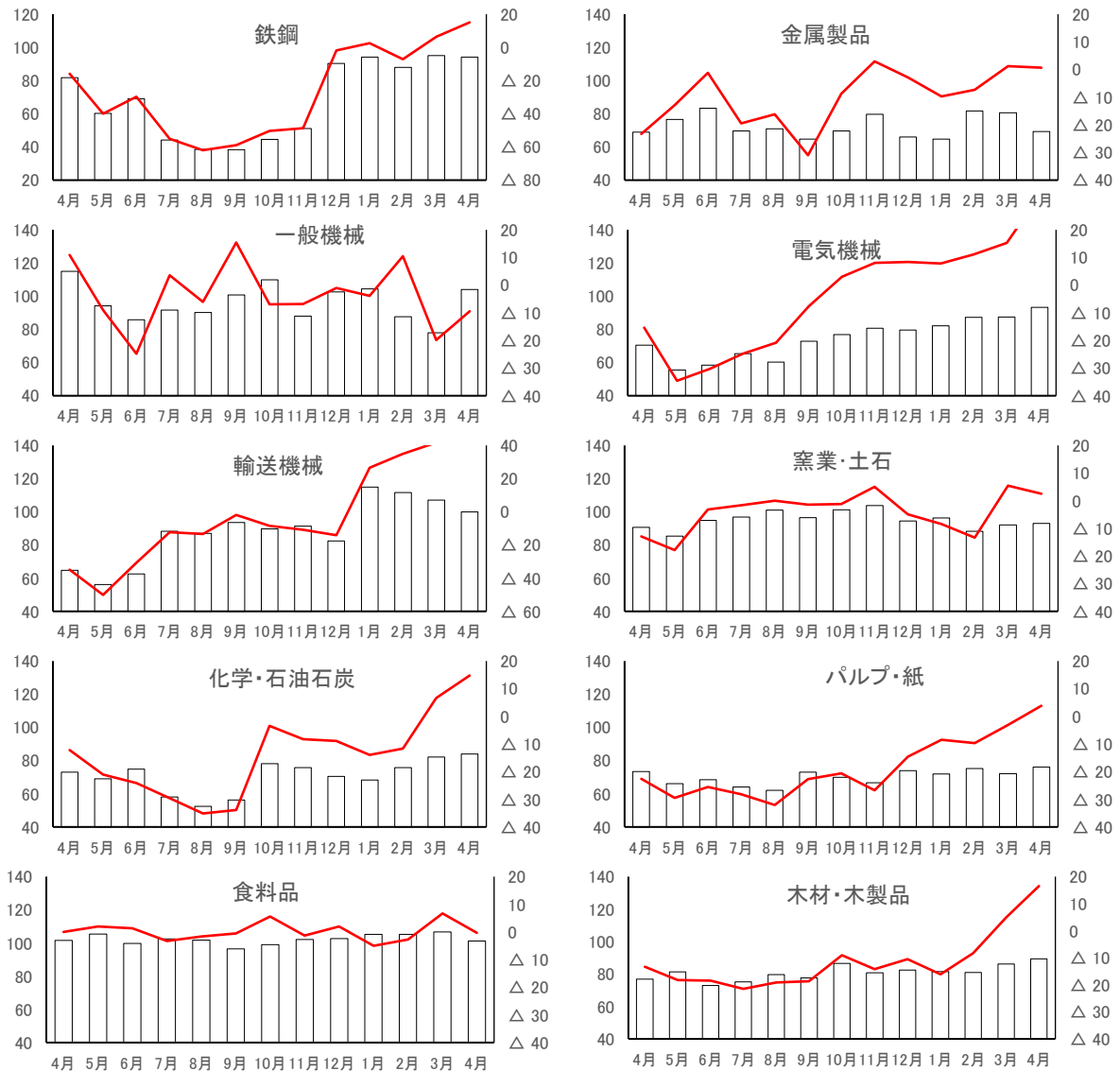
（季節調整済指数：平成27年=100）

（原指数前年同月比：%）



■ 主な業種の季節調整済指数(右軸：原指数前年同月比%)

*「p」は速報値

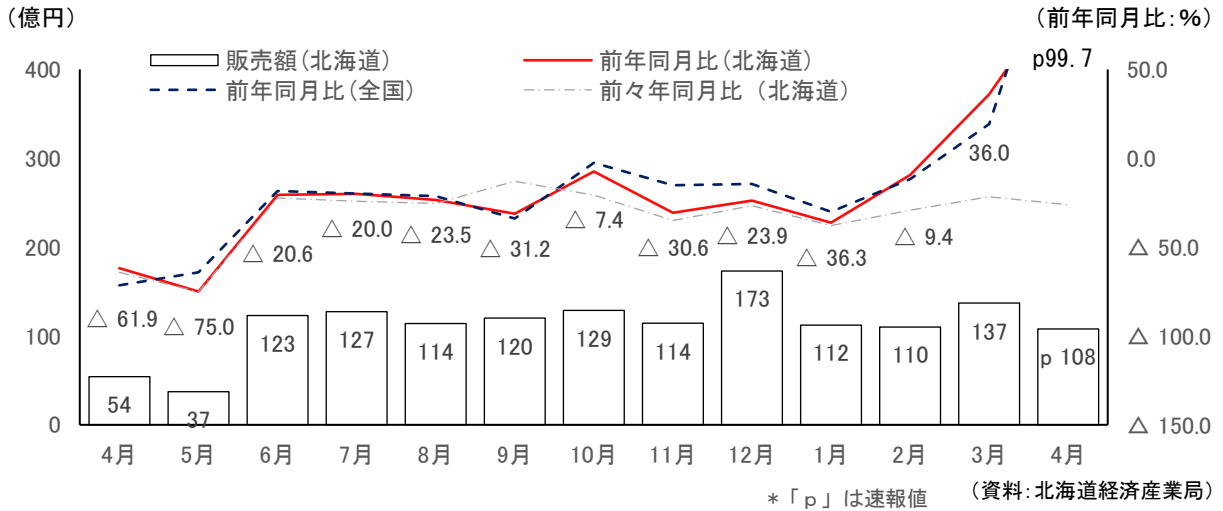


（資料：北海道経済産業局）

■個人消費～一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている

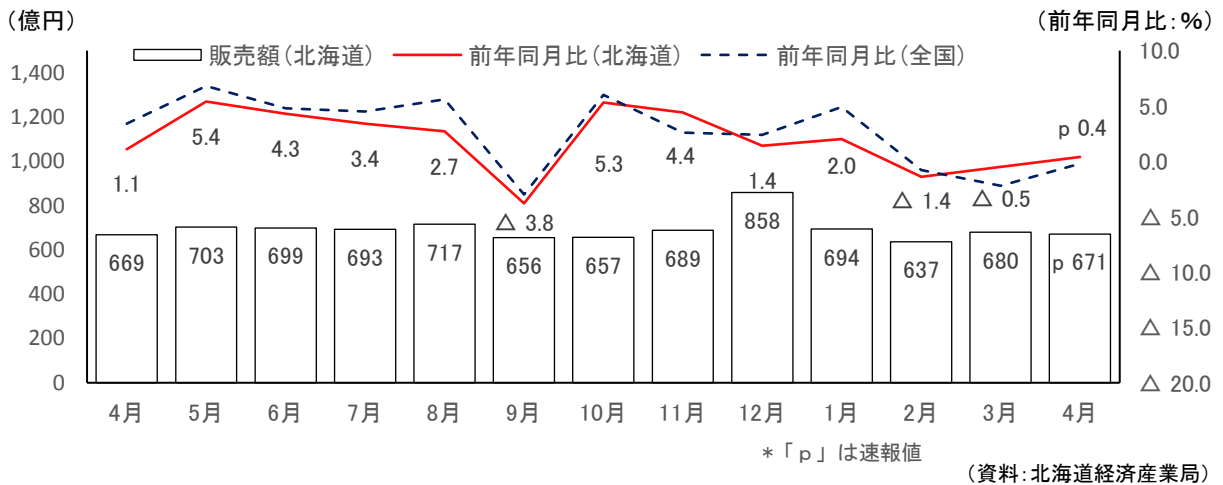
百貨店販売額（4月）

百貨店販売額は、108 億円で前年同月比 99.7%の増加となり、2 か月連続で前年を上回った。



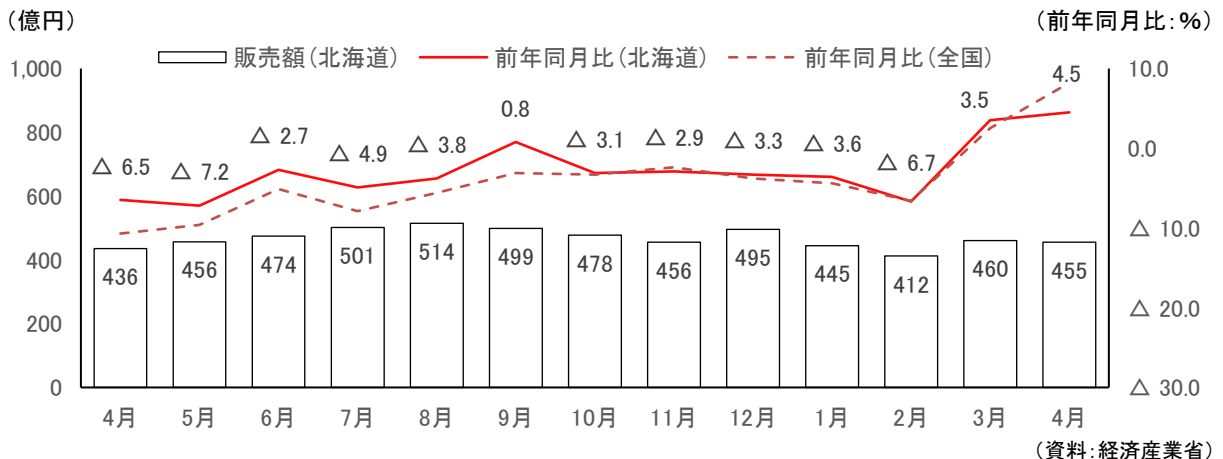
スーパー販売額（4月）

スーパー販売額は、671 億円で前年同月比 0.4%の増加となり、3 か月ぶりに前年を上回った。



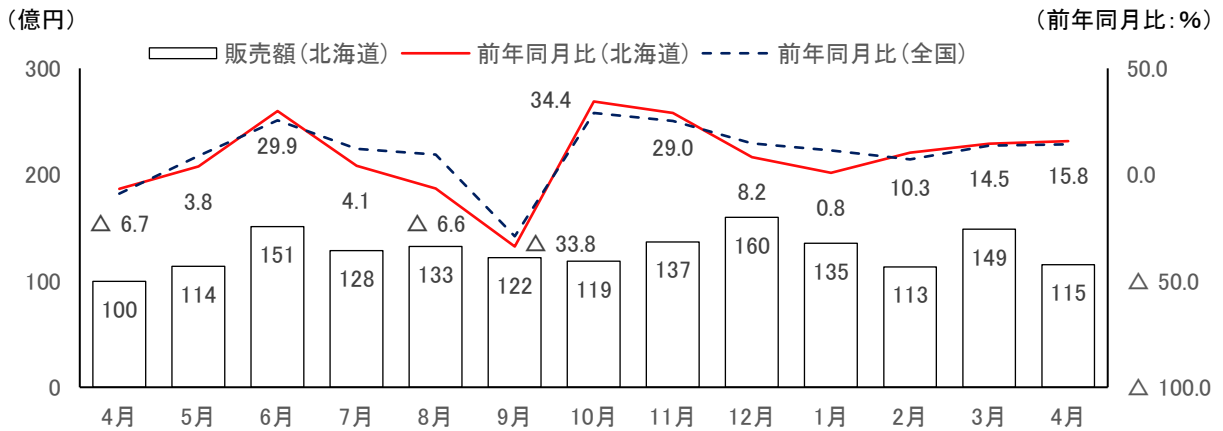
コンビニエンスストア販売額（4月）

コンビニエンスストア販売額は、455 億円で前年同月比 4.5%の増加となり、2 か月連続で前年を上回った。



家電大型専門店販売額（4月）

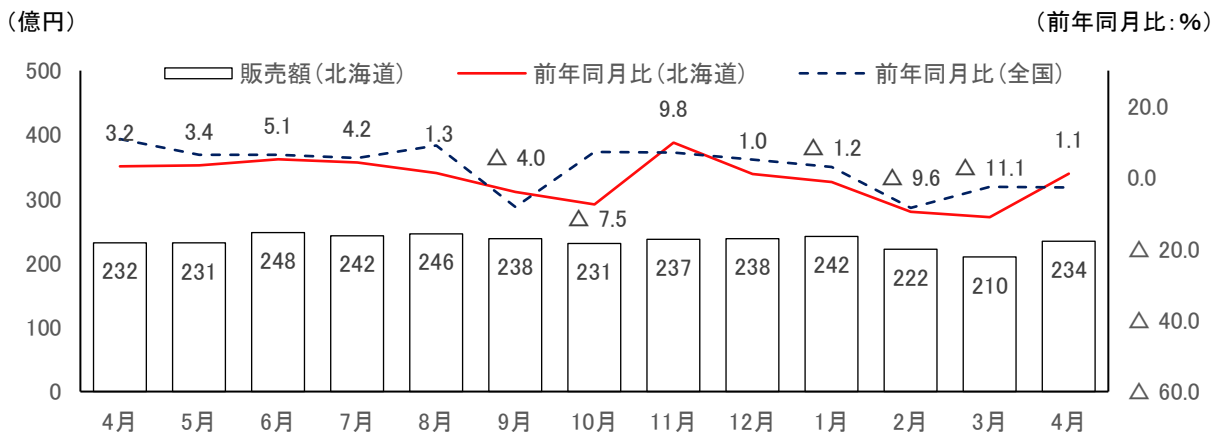
家電大型専門店販売額は、115億円で前年同月比15.8%の増加となり7か月連続で前年を上回った。



(資料:経済産業省)

ドラッグストア販売額（4月）

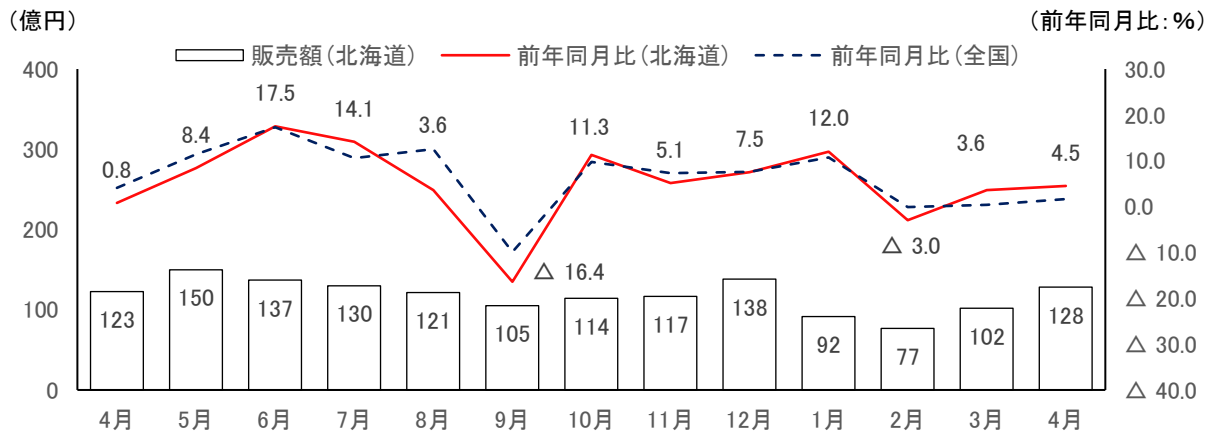
ドラッグストア販売額は、234億円で前年同月比1.1%の増加となり、4か月ぶりに前年を上回った。



(資料:経済産業省)

ホームセンター販売額（4月）

ホームセンター販売額は、128億円で前年同月比4.5%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。

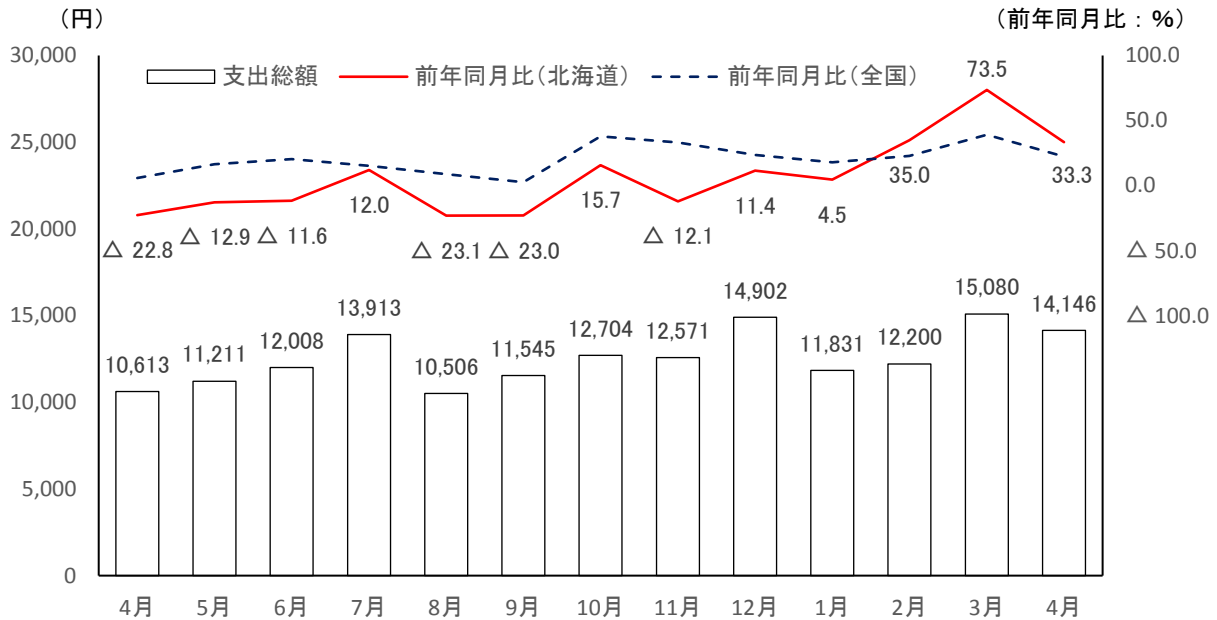


(資料:経済産業省)

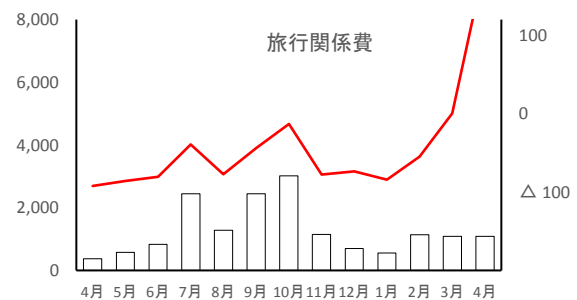
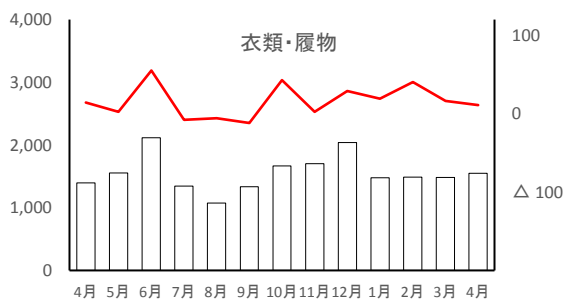
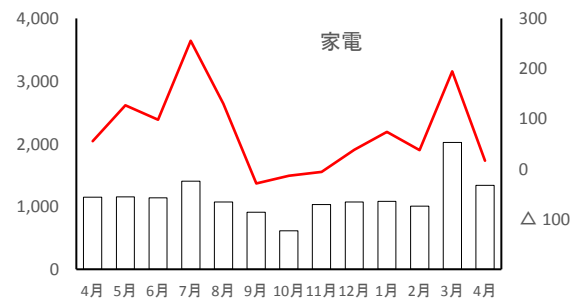
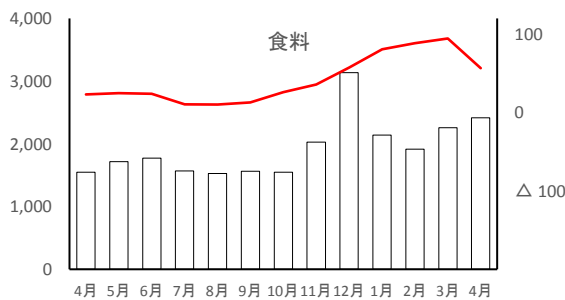
インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出（4月）

インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出総額は14,146円で、前年同月比33.3%の増加となり、5か月連続で前年を上回った。

品目別にみると、食料は2,417円で前年同月比56.3%の増加、家電は1,340円で同16.7%の増加、衣類・履物は1,550円で同11.0%の増加、旅行関係費が1,091円で同192.5%の増加となった。



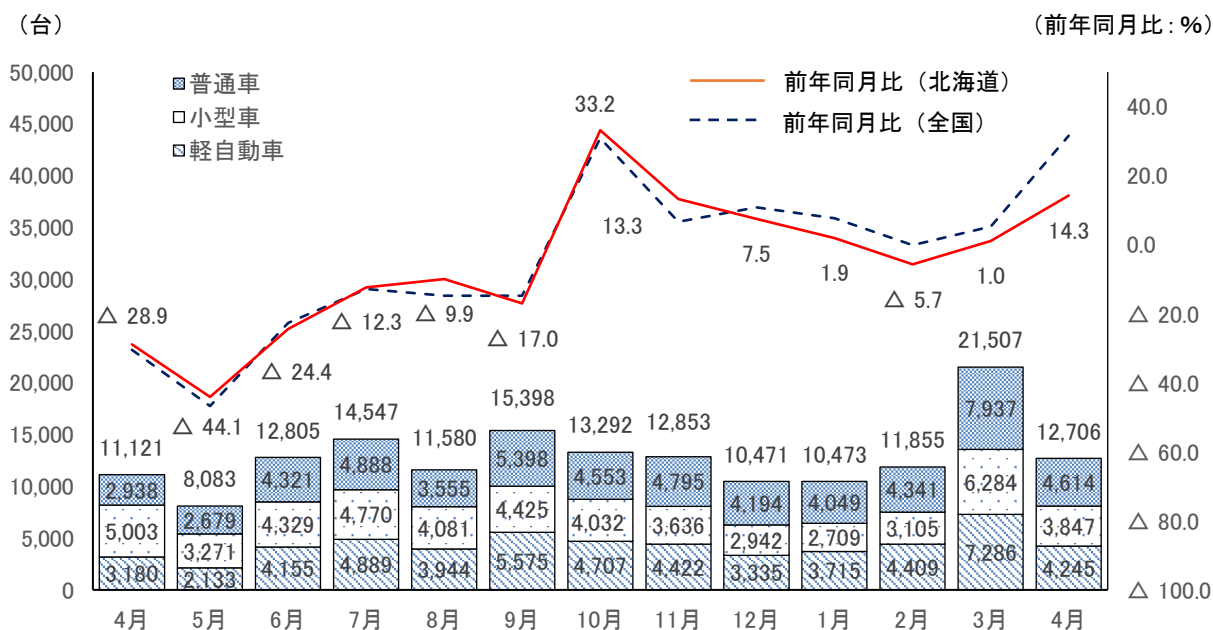
■品目別支出額（右軸：前年同月比%）



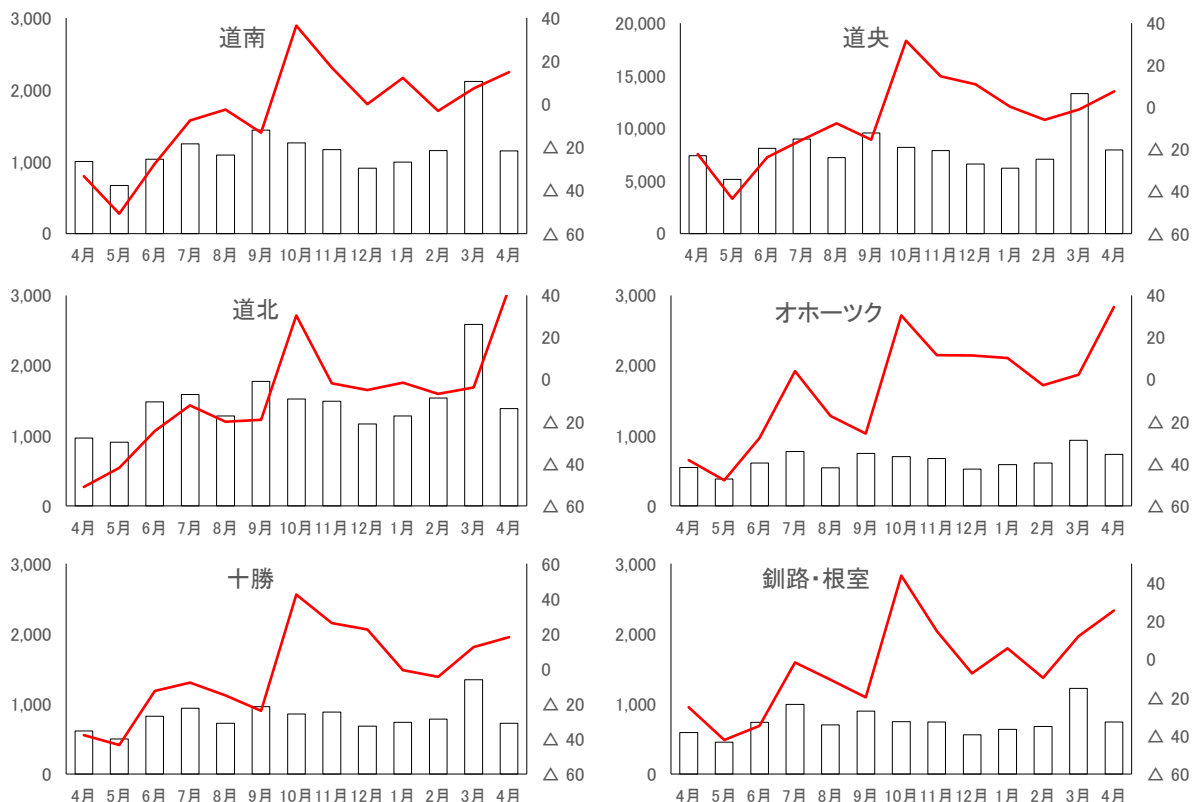
（資料：総務省）

新車登録台数（4月）

新車登録台数は、12,706 台で前年同月比 14.3%の増加となり、2 か月連続で前年を上回った。
 車種別にみると、普通車は、4,614 台で前年同月比 57.0%の増加、小型車は、3,847 台で同 23.1%の減少、軽自動車は、4,245 台で同 33.5%の増加となった。



■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）

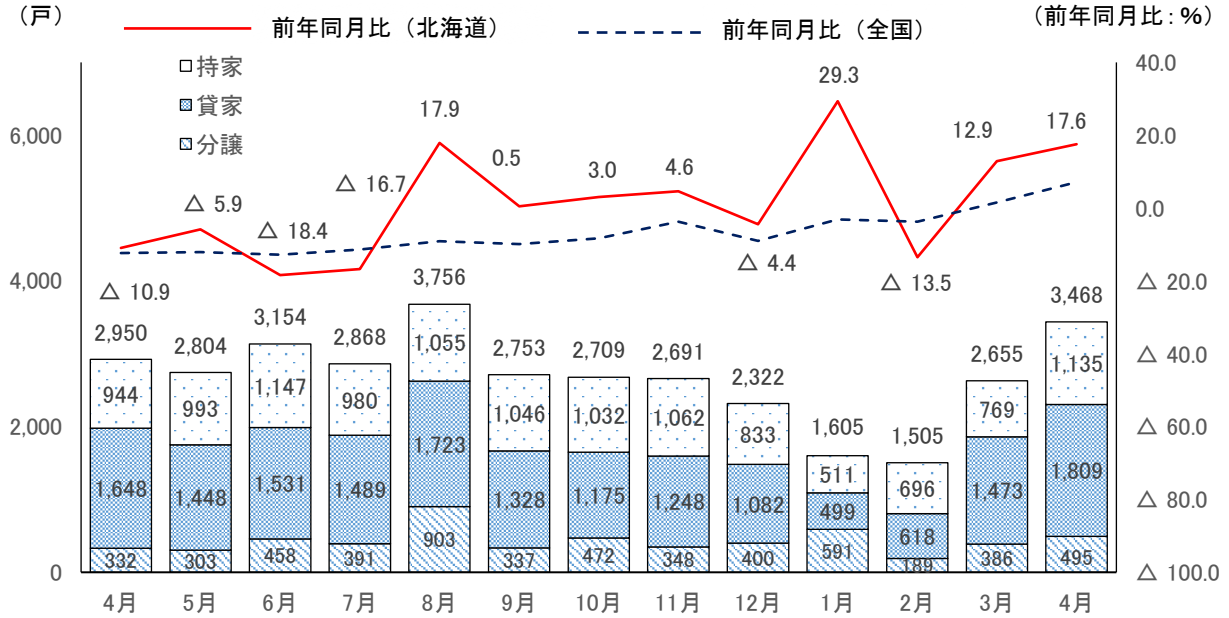


(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

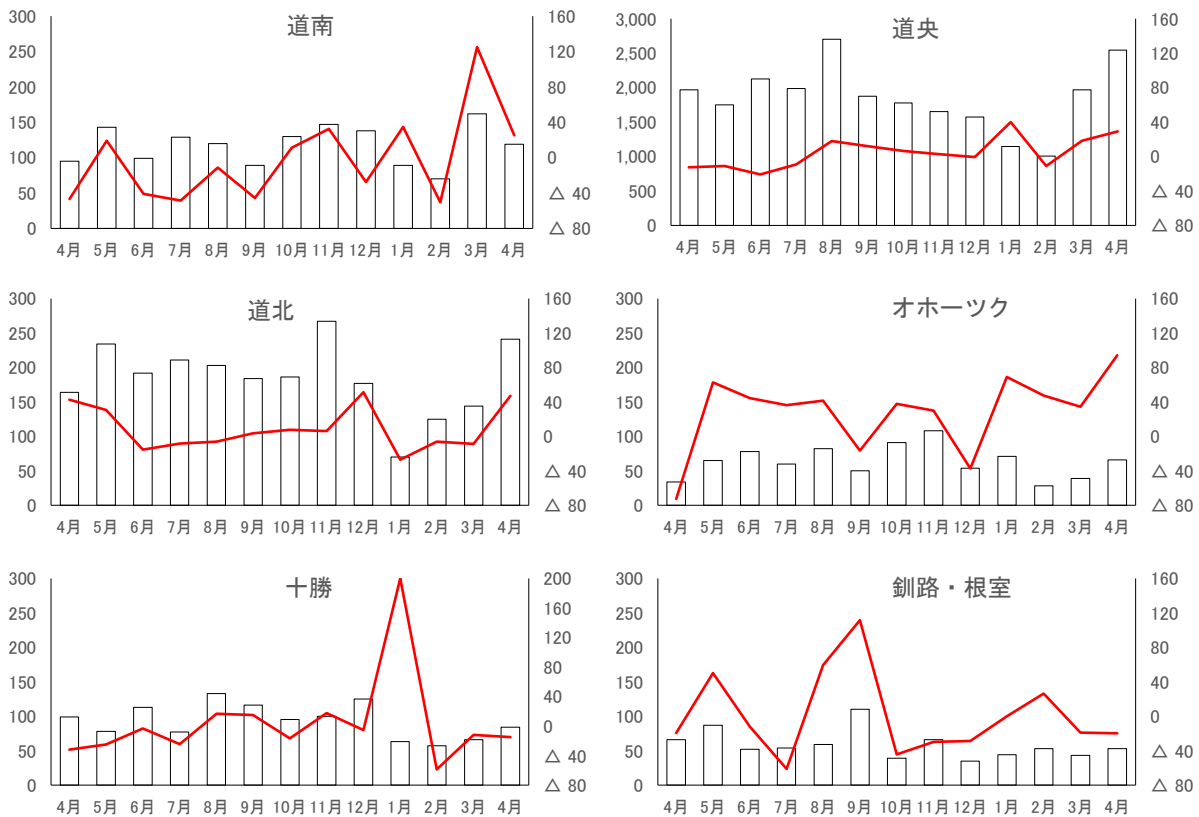
■住宅建設～ 持ち直しの兆しがみられる

新設住宅着工戸数（4月）

住宅着工戸数は、3,468戸で前年同月比17.6%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。
 利用関係別にみると、持家は、1,135戸で同20.2%の増加、貸家は、1,809戸で9.8%の増加、分譲住宅は495戸で同49.1%の増加となった。



■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

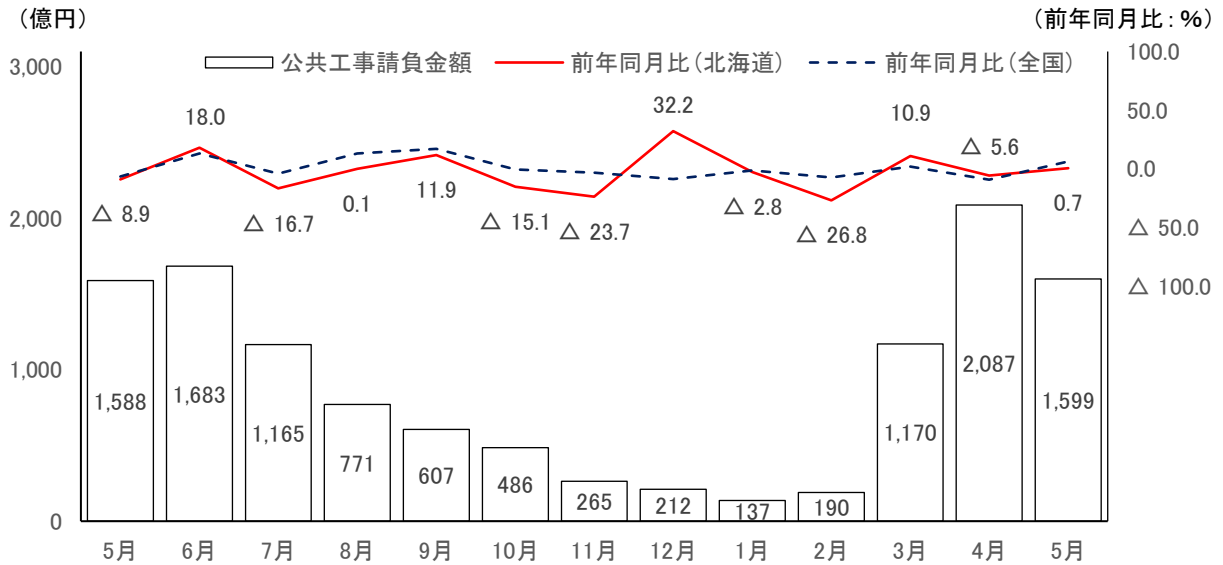


(資料:国土交通省)

公共工事～おおむね横ばいとなっている

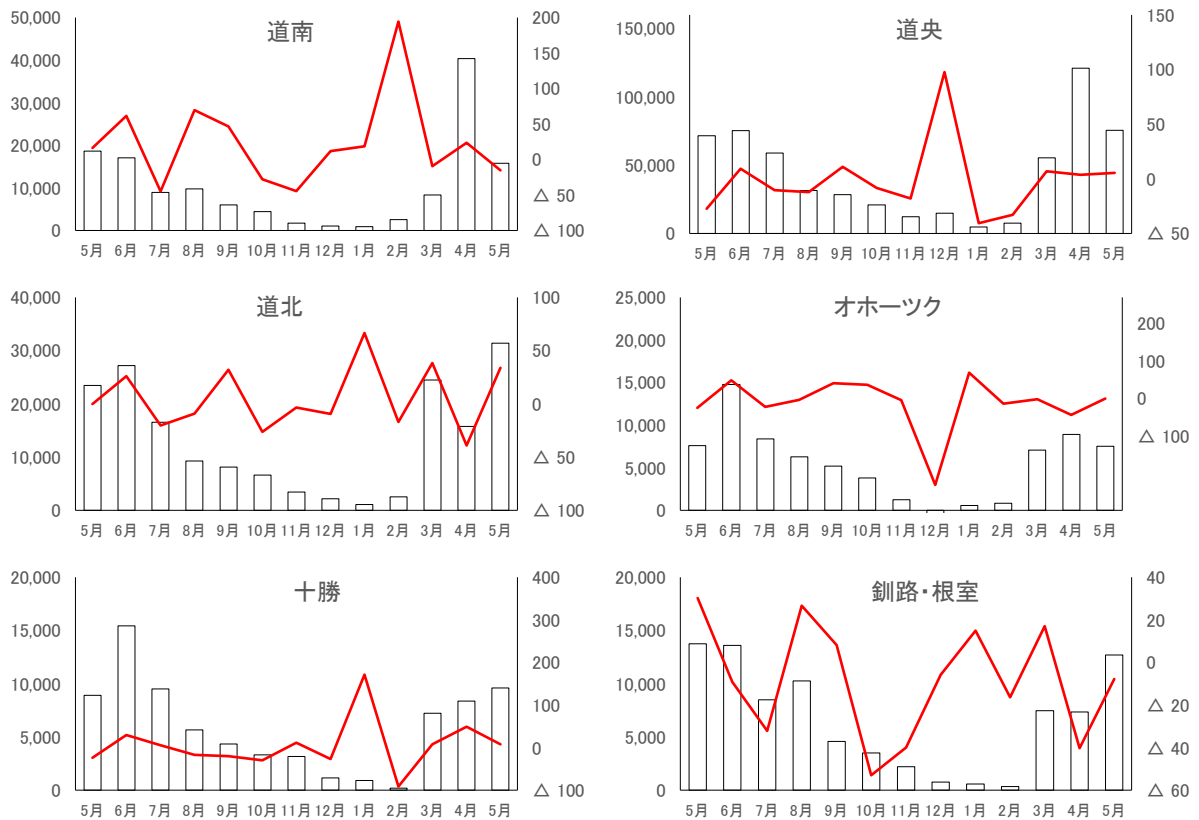
公共工事請負金額（5月）

請負金額は、1,599 億円で前年同月比 0.7%の増加となり、2 か月ぶりに前年を上回った。



(資料:北海道建設業信用保証(株))

各圏域の公共工事請負金額（左軸：百万円、右軸：前年同月比%）

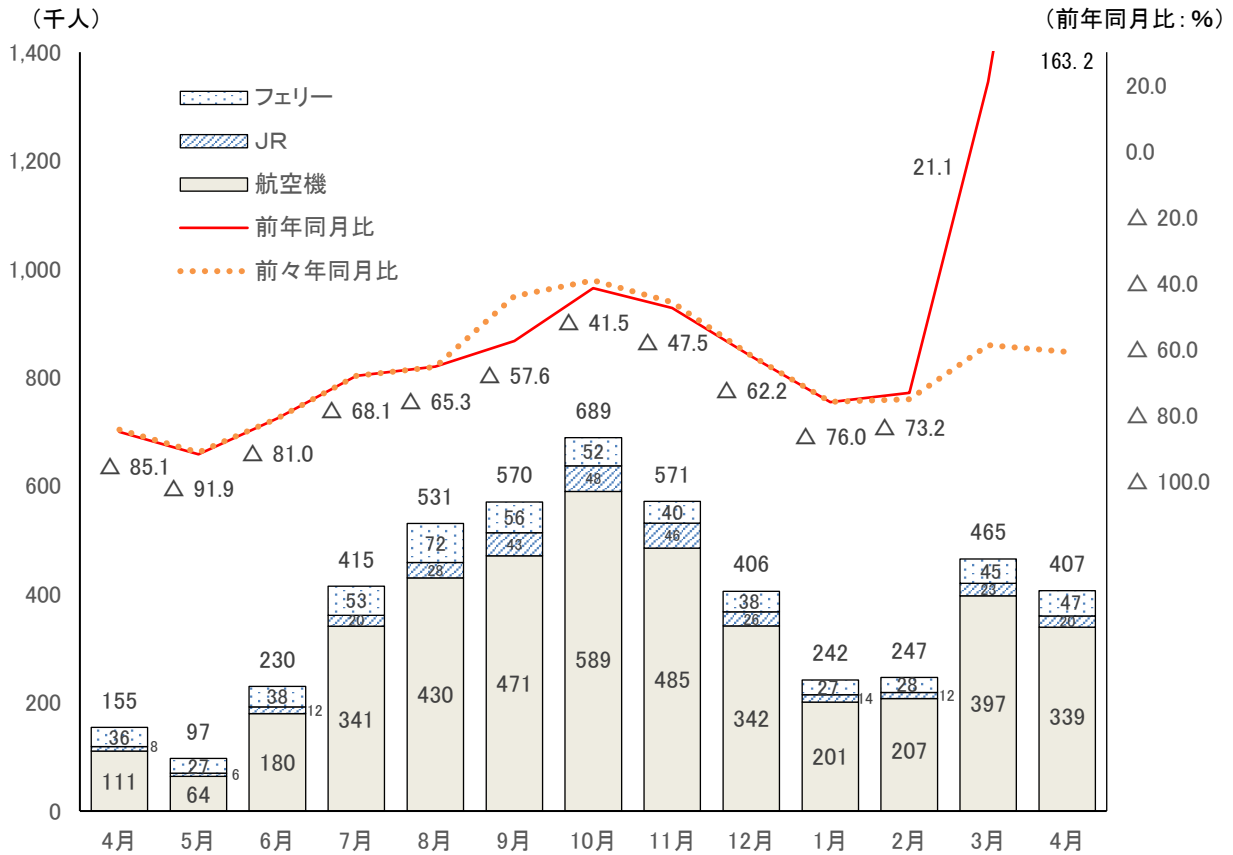


(資料:北海道建設業信用保証(株))

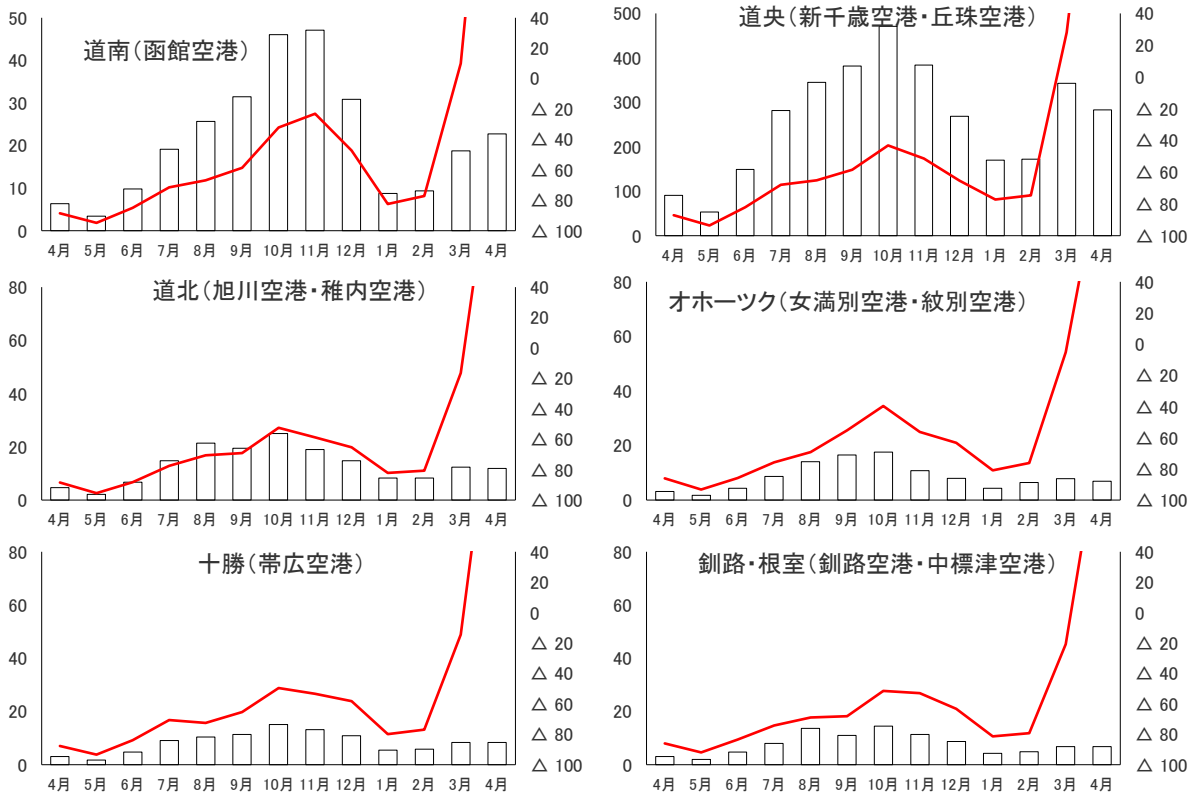
■観光～下げ止まりの動きがみられる

来道者数（4月）

来道者数は、40万7千人で前年同月比163.2%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。



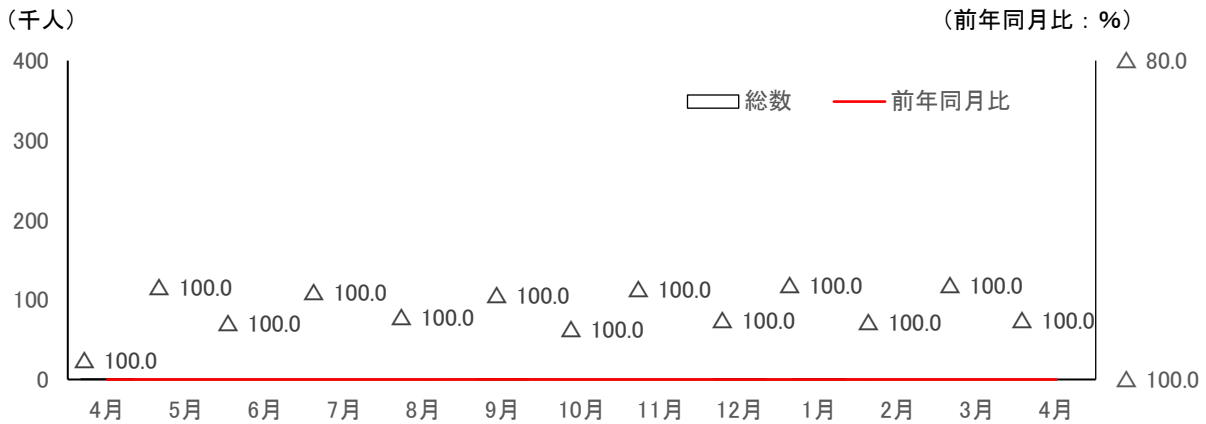
■各圏域の航空機利用による来道者数（左軸：千人、右軸：前年同月比%）



(資料：(公社)北海道観光振興機構)

来道外国人数（4月）

本道に直接入国した外国人は、0人で前年同月比100.0%の減少となり、19か月連続で前年を下回った。

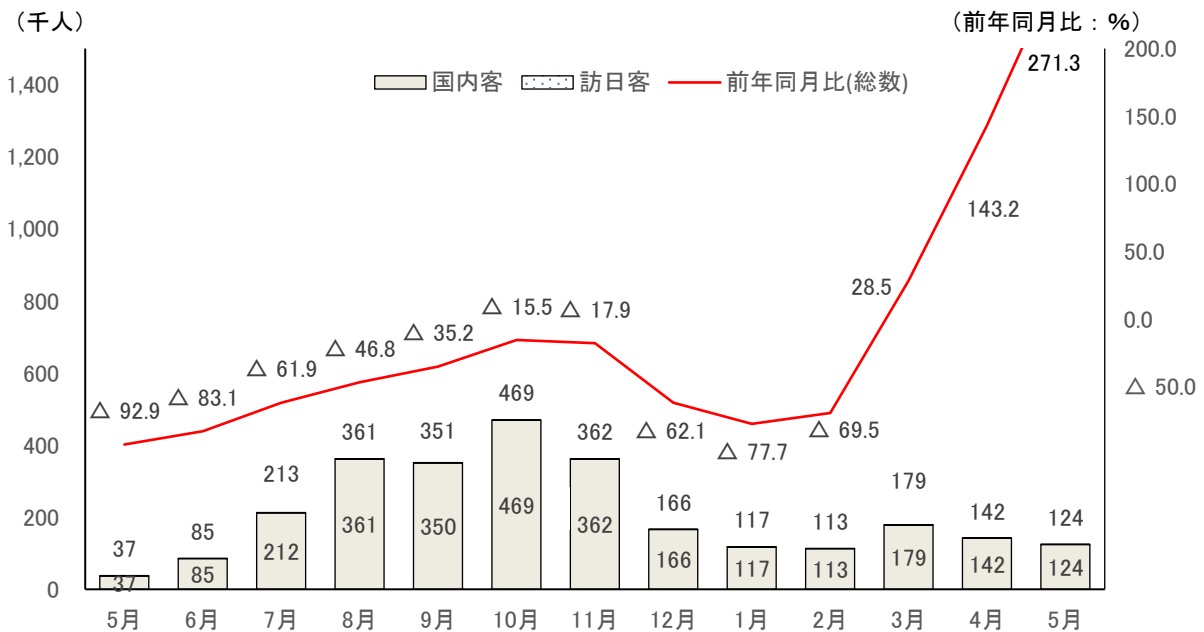


*「p」は速報値 (資料:法務省入国管理局)

宿泊者数（5月）

日本旅館協会加盟施設の宿泊者数は、123,818人で前年同月比271.3%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。

このうち、国内客は123,781人で同271.3%の増加、訪日客は37人で同131.3%の増加となった。

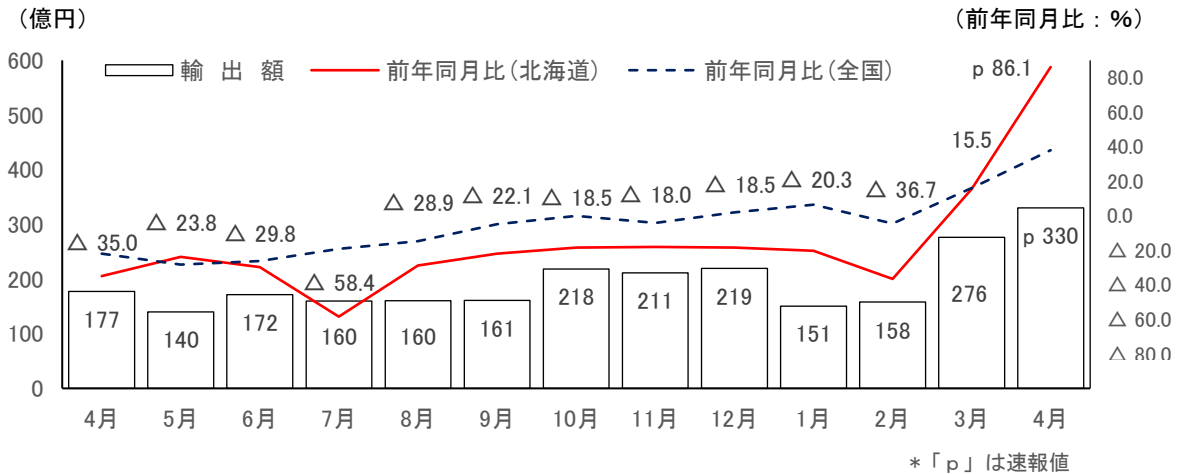


(資料:日本旅館協会北海道支部連合会)

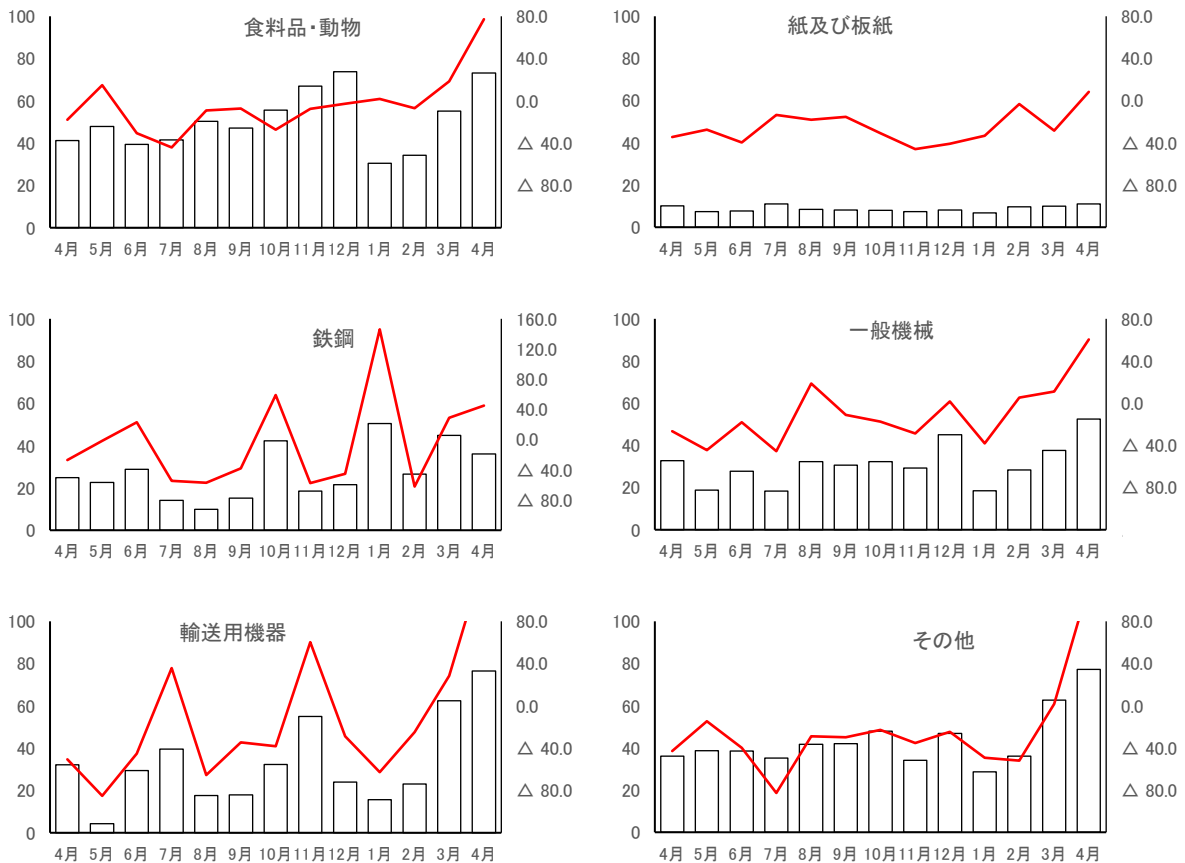
■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を上回った

輸出額（4月）

輸出額は、330億円で前年同月比86.1%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。
品目別にみると、自動車の部分品、魚介類・同調製品、鉄鋼くずなどが増加し、果実・野菜、飼料、ゴム製品などが減少した。



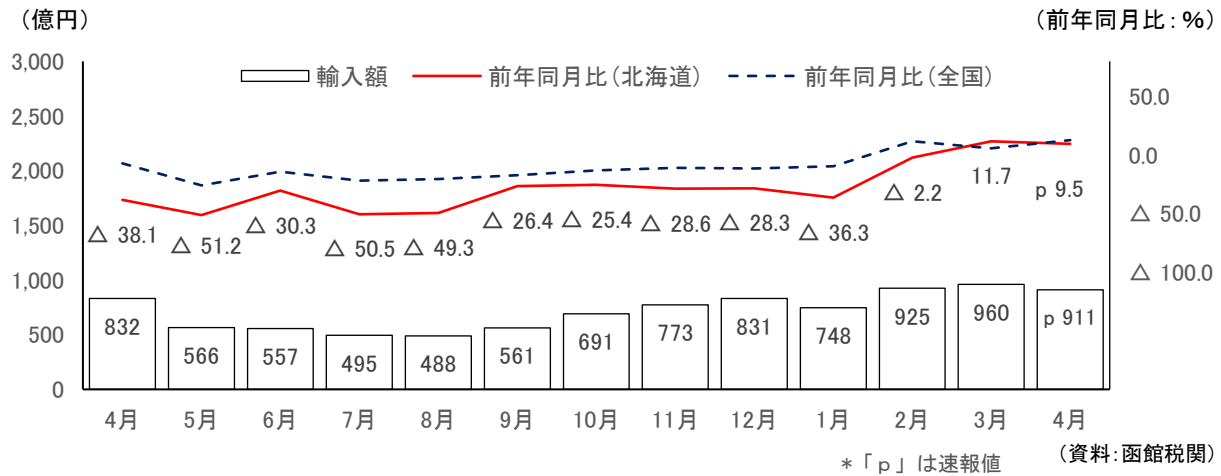
■種類別の輸出額（右軸：前年同月比%）



(資料：函館税関)

輸入額（4月）

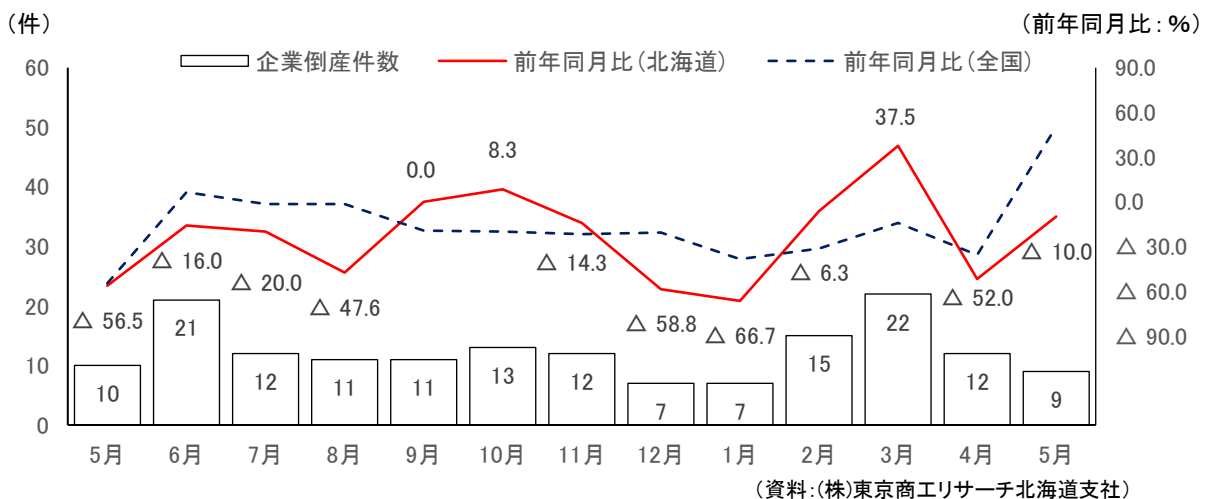
輸入額は、911億円で同9.5%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。
品目別にみると、原油・粗油、とうもろこし、石炭などが増加したが、天然ガス・製造ガス、電気機器、ウッドチップなどが減少した。



■企業倒産～倒産件数、負債総額ともに減少した

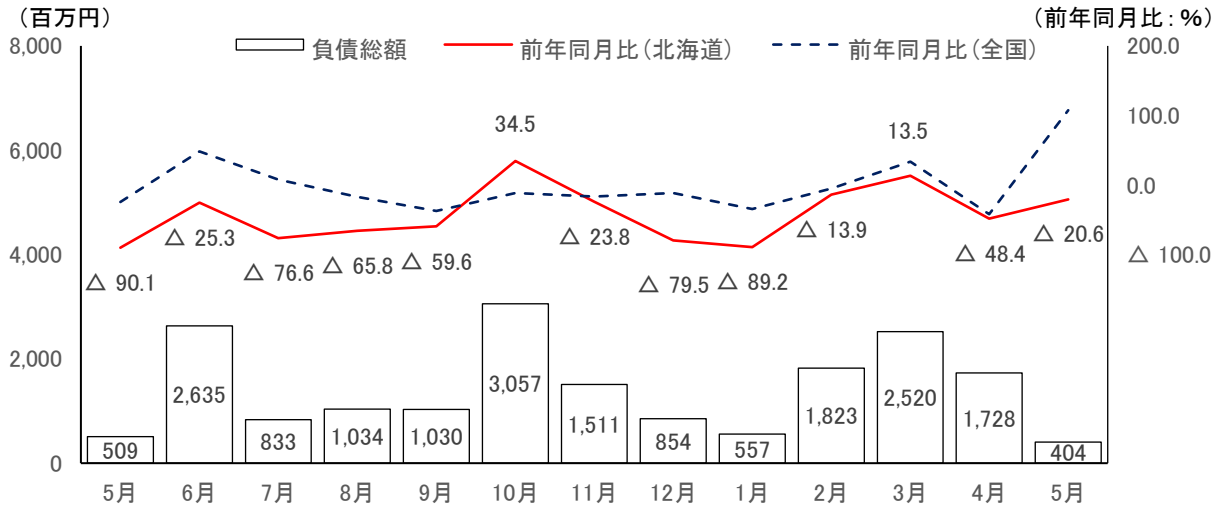
倒産件数（5月）

企業倒産件数は9件、前年同月比で1件の減少となった。
原因別でみると、販売不振が6件（構成比 66.7%）と半数以上を占めた。
業種別でみると、サービス業が4件（構成比 44.4%）、卸・小売業が3件（構成比 33.3%）、建設業が1件、製造業が1件であった。

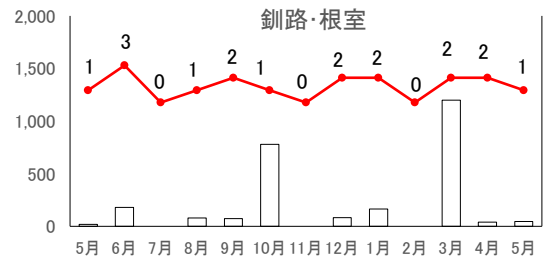
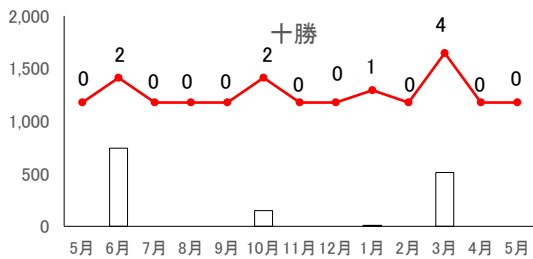
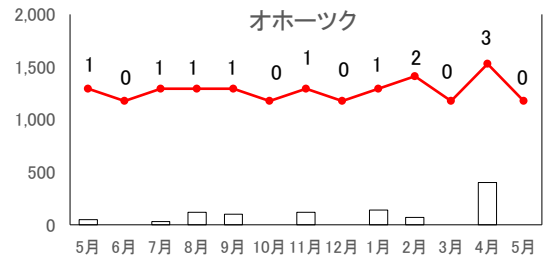
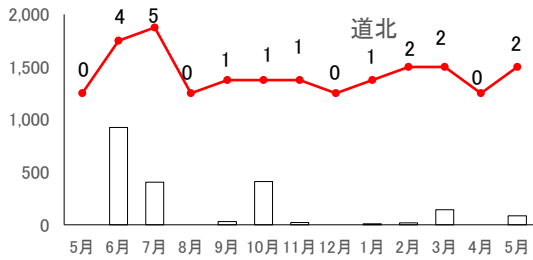
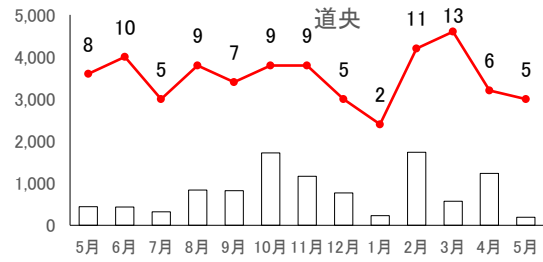
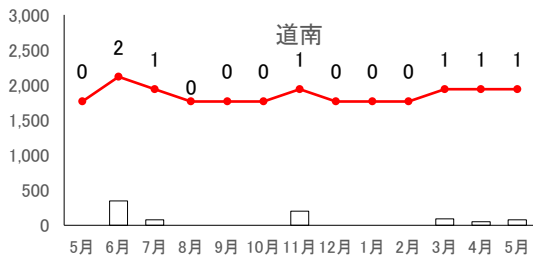


負債総額（5月）

負債総額は、4億04百万円で同20.6%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）



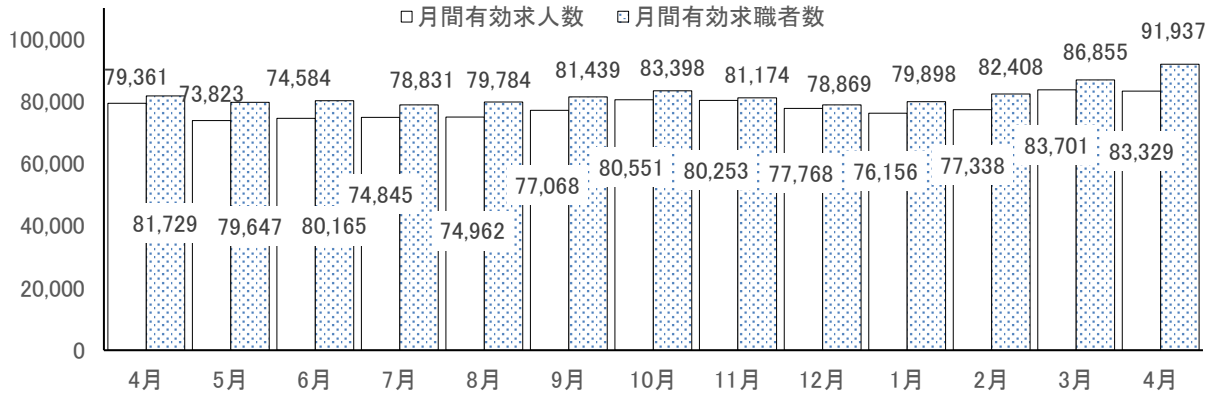
(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～弱い動きが続いている

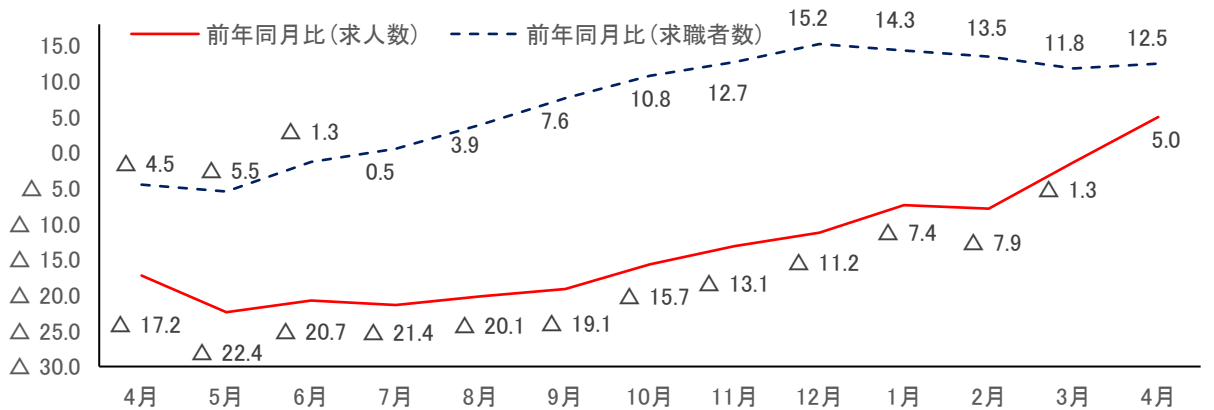
月間有効求人数・求職者数（4月）

月間有効求人数は、8万3,329で前年同月比5.0%の増加となり、18か月ぶりに前年を上回った。月間有効求職者数は、9万1,937人で同12.5%の増加となり、10か月連続で前年を上回った。

(人)



(前年同月比：%)



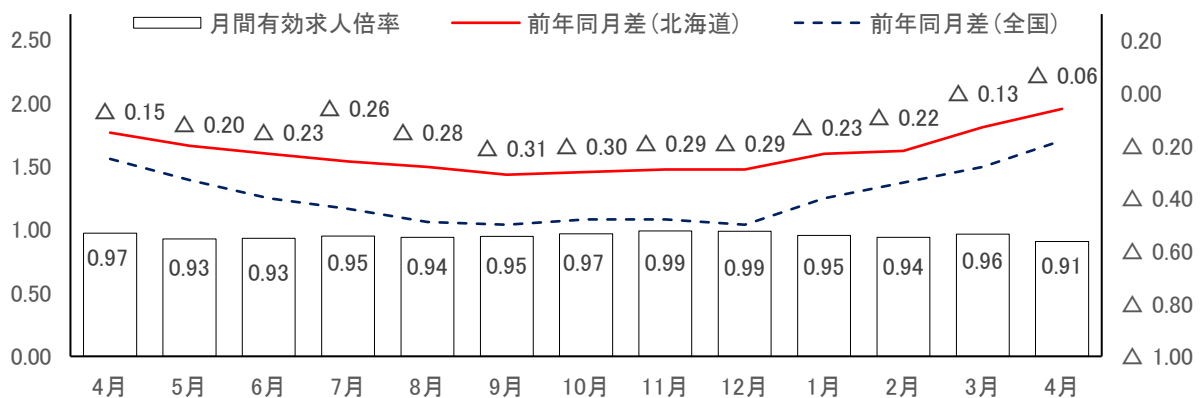
(資料：北海道労働局)

月間有効求人倍率（4月）

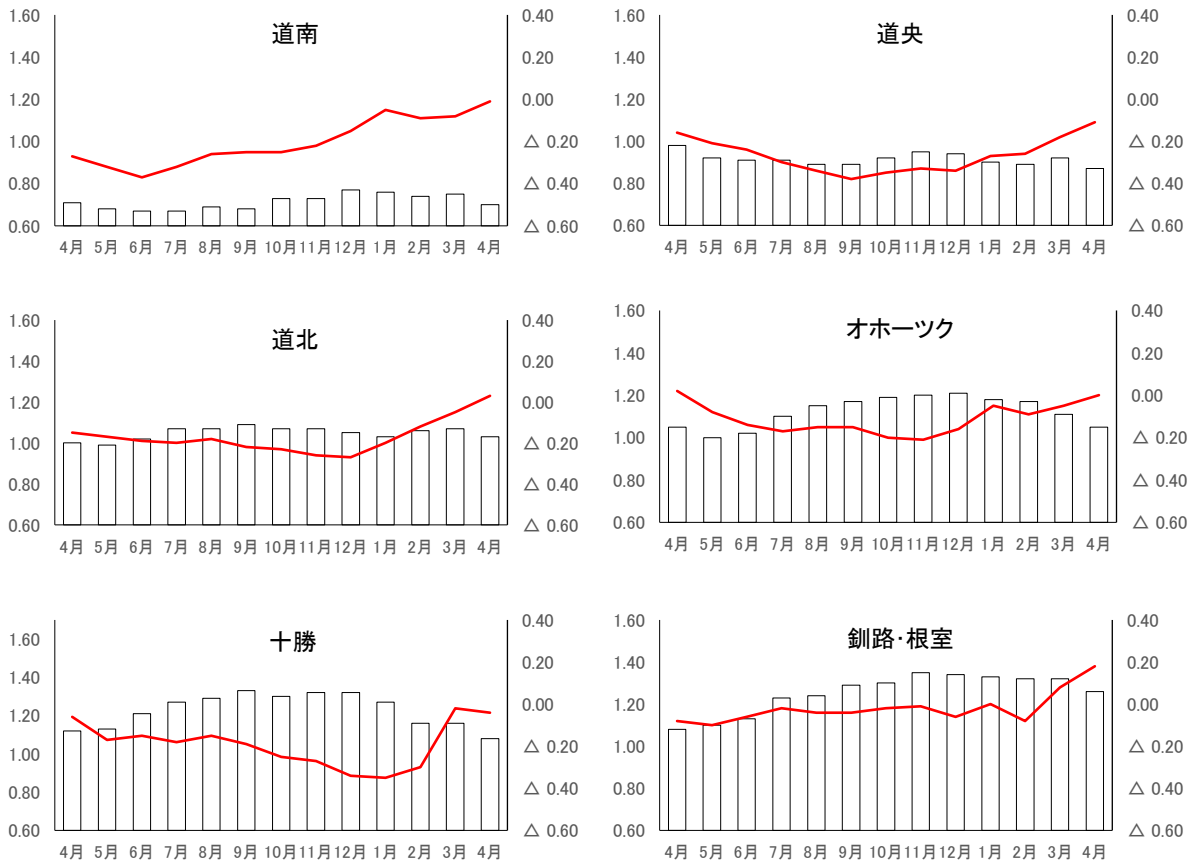
有効求人倍率は0.91倍で、前年同月差で0.06ポイントの減少となり、16か月連続で前年を下回った。

(倍)

(前年同月差：ポイント)



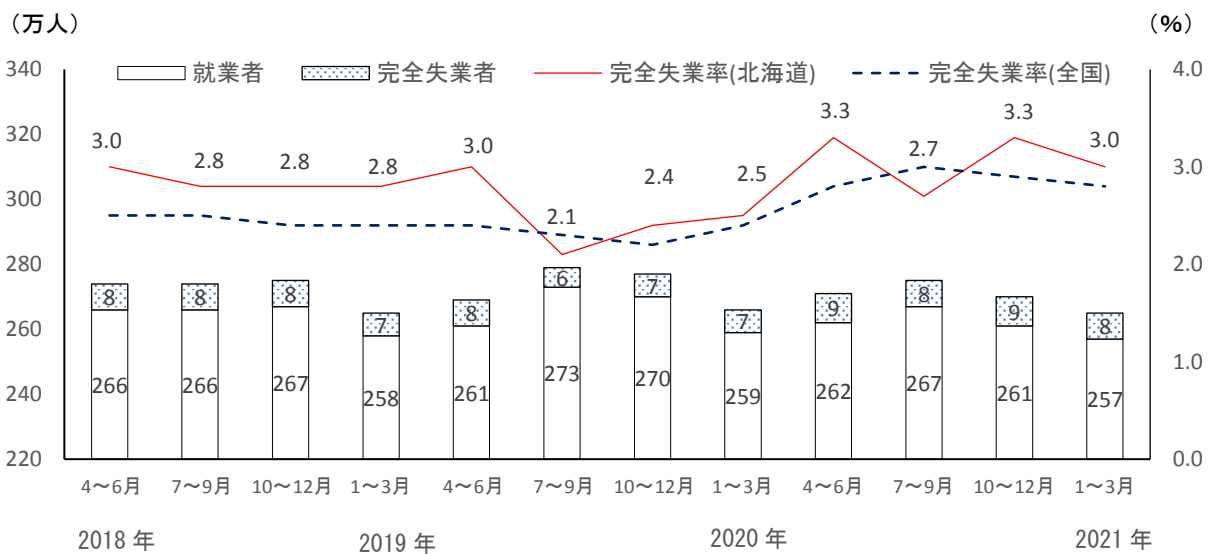
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



(資料:北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（令和3年1－3月）

完全失業者数は8万人で、前年同期と比べ1万人増加している。
完全失業率は3.0%で、前年同期と比べ0.5ポイント上昇となっている。

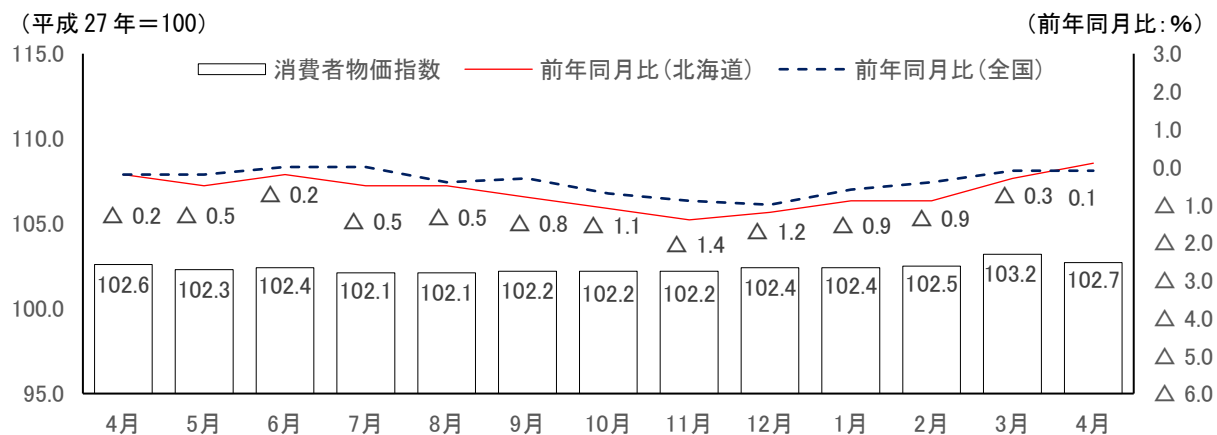


(資料:総務省)

■物価～消費者物価指数は前年を上回った

消費者物価指数（4月）

消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、102.7で前年同月比0.1%の上昇となり、13か月ぶりに前年を上回った。



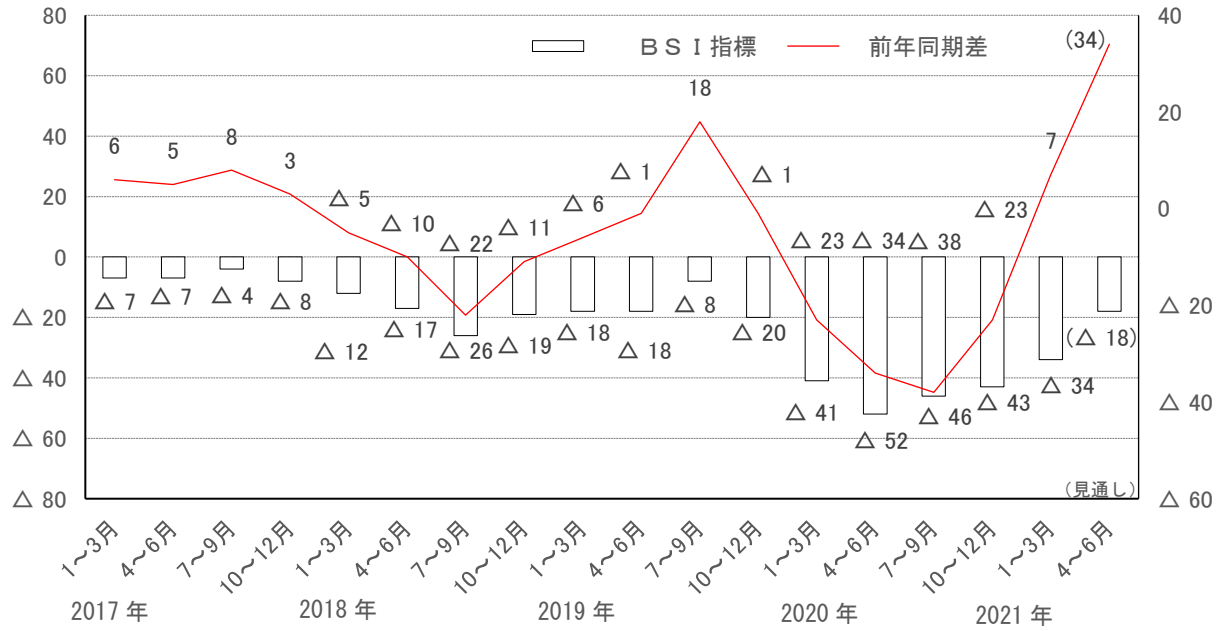
(資料:総務省)

■企業経営者意識調査～前期から上昇している

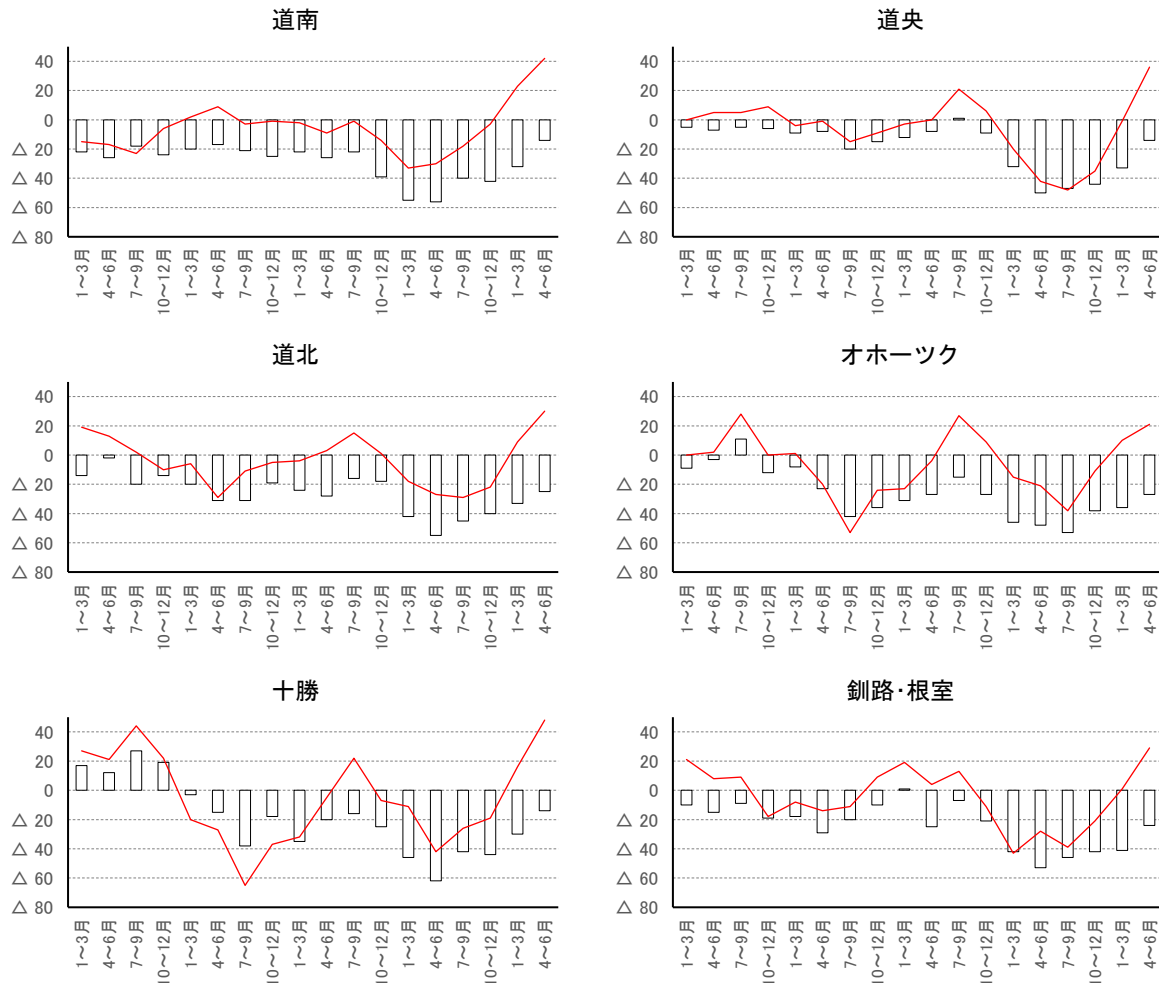
令和3年1～3月期の業況感BSIは△34ポイントで、前期から9ポイント上昇しており、前年同期より7ポイント上昇している。来期見通しは△18ポイントで、今期から16ポイント上昇の見通しとなっている。

(BSIポイント)

(前年同期差:ポイント)



■各圏域の業況感BSI (折れ線グラフは前年同期差)



(北海道経済部調べ)

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【5月の売上は低調】

4月末からのコロナウイルスの感染拡大により、初旬から売上は低調であったが、緊急事態宣言の発令による客数の減少に伴い、高級時計や食料品などこれまで比較的好調であった商材についても、低調となった。外商や道産品の販売において、オンラインを活用した取組を行っており、今後も継続、強化を図っていきたい。

【6月は回復傾向】

入店客数が少しずつ回復してきたため、5月と比べると売上は上向き傾向であり、特に平日の客足が戻ってきている感がある。ただ、夏のセールも現状では大々的に開催することは難しいため、状況を見ながらできる範囲内で行っていききたい。

◆スーパー（道央地域）

【4月は前々年比で伸びを維持】

3月に引き続き、前年比の売上は全体で100%を割っているものの、前々年比では伸びている。前年に売上が伸びた日持ちのする商品、特に米が大きく前年割れした一方で、昨年伸び悩んだデリカなどに加え、コロナの影響で帰省を自粛していることが影響したためか、アスバラギフトが好調であった。

【まん延防止等重点措置の適用以降、内食需要が高まる】

5月は、まん延防止等重点措置が適用される報道が出てから内食需要が一気に高まり、前年比100%を超える週が増えて、昨年の緊急事態宣言時同様、米、冷食、酒の売上が伸びた。また、母の日は、昨年の悪天候と緊急事態宣言による反動で好調だったが、悪天候の影響で食肉・飲料を中心にBBQ・行楽商材が不振であった。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【買い物控えは収まる】

5月は売上・客数ともに前年比で増加しており、買い物を控える行動は昨年よりは収まっている。ただし、観光地の需要は回復しているものの、一昨年と比較すると減少している。

【買いためは落ち着き、中食が好調】

5月は昨年より平均気温が低く、夏型商品（飲料、冷やし麺、アイス、ビールなど）の動向は鈍かった。家庭内で消費する食材類の需要は、昨年同時期ほどではないが、一昨年のコロナ前よりも増加している。食材の買いためはある程度落ち着いたが、弁当やおにぎり、惣菜など中食的な商品が好調に推移した。5月16日の緊急事態宣言発出後は、家飲みのアルコールやおつまみ類の需要が増えた。

最近の経済動向

令和3年6月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>